

貧酸素水塊速報 (2024年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
○ 神奈川県水産技術センター
千葉県農林水産技術会議
内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
第三管区海上保安本部
東京都環境局
(国) 国立環境研究所

○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)

(今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

令和6年10月3日観測結果

貧酸素水塊は内湾北部と神奈川県側に分布していました。9月23日から続いた北寄りの風により、湾奥で青潮が発生していたため、貧酸素水塊が縮小しました(図1)。

また、内湾平場の無酸素水が解消したことから、今後大規模な青潮が発生する可能性は無くなりました。

縦断ラインの鉛直分布をみると、その規模は11%と縮小し、直近10年並みでした(図2,3)。
表層水温24℃、底層水温21～24℃で、鉛直混合が進み水温差が小さくなっています。

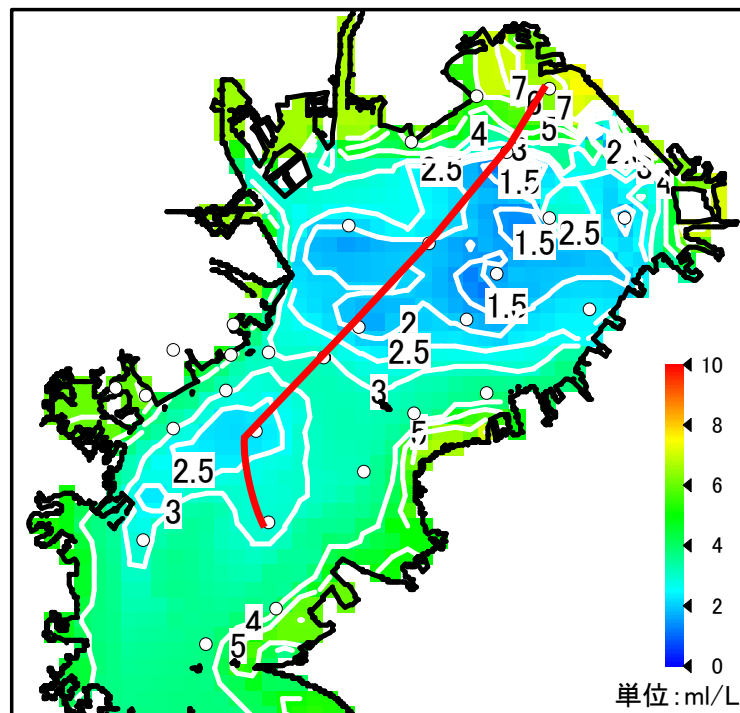


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

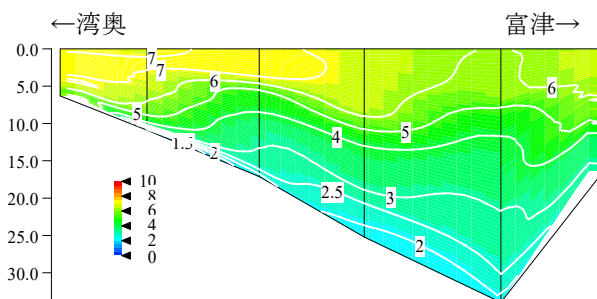


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

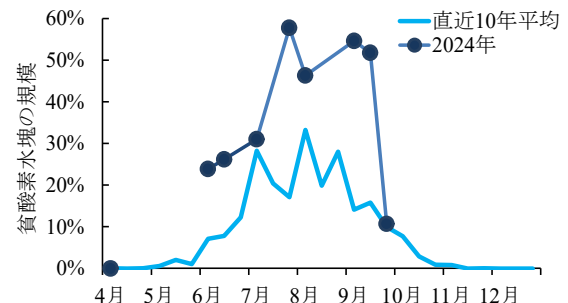


図3 貧酸素水塊の規模

(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)

酸素飽和度と溶存酸素量(DO)の目安

酸素飽和度	溶存酸素量	備考
50%	2.5mL/L	貧酸素水塊
30～40%	2.0mL/L	魚類に影響
	1.5mL/L	貝類危険
	1.0mL/L	